

せいけん
詩集

第百二十二篇

作：近藤せいけん

「ああ 東洋 白山の丘 その二」

若き学生たちの明るさ 眩しさに

人生の一番 いい時を感じ

ふと 立ち止まり

構内の並木に目をうつす

変りゆくものになかに

変らぬものを 見つけ

心ひかれ

流れ去った 幾歳月を想う

君知るや 哲人 井上 円了

先人の歩んだ 苦難の道を

東洋の伝統 誇り 永い歴史を

時代を越えて

学究の門 広く 深く

若き学生に 受け継がれん

ことを願う

哲人 今も 舞台上に 立つ